

# なたね栽培暦

月	8			9			10			11			12			1			2			3			4			5			6			7		
	旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
生育				発芽						茎葉伸長			越冬						抽苔			開花			成熟			収穫								
作業				溝きり 耕起 砕土			堆肥施用			元肥施用 播種 除草剤散布			追肥 (場合により)						追肥 ①			追肥 (場合により)			追肥 ②			収穫			乾燥 調整			搾油		
							播種量:ばら播き 1.0kg/10a すじ播き 0.4~0.5kg/10a																													

## 施肥例(10a当り)

### ①堆肥-化成型

資材名	N	P	K	施用量(/10a)	施用時期	備考
完熟堆肥(牛糞等)				2t	播種1カ月前	
(苦土石灰)				(60~100kg)	(播種1カ月前~2週間前)	
化成肥料(14-14-14)	14	14	14	30~40kg	播種前	
硫安	21			10~20kg	播種1~2カ月後	肥料が早く切れてきた時、発芽率が低い場合、気温が下がる前に ※1
〃	21			10~20kg	2月下旬頃	気温が上昇し始めたら ※2
〃	21			10~20kg	3月中旬頃	花芽が伸びだした頃
〃	21			10~20kg	4月中旬頃	生育が遅れたり良くない場合、開花盛期まで

## 施肥例(10a当り)

### ②鶏糞-硫安型

資材名	N	P	K	施用量(/10a)	施用時期	備考
伊勢ペレット肥料	5.0	3.5	2.5	150~300kg	播種1カ月前から2週間前	
硫安	21			10~20kg	播種1~2カ月後	肥料が早く切れてきた時、発芽率が低い場合、気温が下がる前に ※1
〃	21			10~20kg	2月下旬頃	気温が上昇し始めたら ※2
〃	21			10~20kg	3月中旬頃	花芽が伸びだした頃
〃	21			10~20kg	4月中旬頃	生育が遅れたり良くない場合、開花盛期まで

※1 11月下旬頃(最低5℃、平均10℃、最高15℃)まで 肥料が切れてきたりした場合

※2 最低0℃、平均5℃、最高10℃を目安に

## 農薬例(10a当り)

対象病害例等	薬剤名	10a当り使用量等	使用時期	使用回数
1年生雑草(ツユクサ、カヤツリグサ、キク、アブラナ科を除く)	トレファノサイド粒剤2.5	4~5kg	播種直後	1回
	トレファノサイド乳剤	200~300ml (希釈水量は100L)		
1年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)	ナブ乳剤	150~200ml (希釈水量は100L~150L)	雑草生育期イネ科雑草3~5葉期 ただし、収穫60日前まで	1回
菌核病	トップジンM水和剤	1,000倍:100~300L (散布液量)	開花前	1回
	ベンレート水和剤	1,000倍~2,000倍 100~300L(散布液量)	開花後から収穫21日前まで	2回以内
			収穫3日前まで	2回以内

### 圃場準備・土づくり

- 湿害に弱いので、溝きりなど排水対策を行う 3~6m間隔
- 耕起はていねいに、播種前の雑草を少なくする
- なたねは種子が小さいため、砕土は細かく。ただし、覆土をしないと発芽率が下がる。

### 播種

- 土壌が乾燥、過湿状態での播種は避ける
- 播種が遅れると草丈が短くなり、収量が減る
- 播種が早いと収量が増えるが、病害や雑草の発生、気象災害のリスクが高まる
- 播種後に軽く覆土を行うと発芽率がよくなる(ロータリーで軽く攪拌する等)

### 収穫

- 時期  
子実が黒色になり、さやの青みがなくなり、かさかさ音がする刈取りが遅いと鳥の食害が多くなりやすい
- 方法  
汎用コンバインまたは大豆コンバイン(そば用キット)で行う